

令和5年11月吉日

保護者様

安積第三小学校長 丹伊田伸哉

交通事故防止について

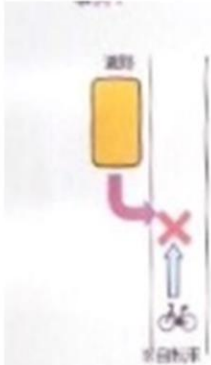
9月以降、市内で児童生徒の交通事故が13件発生しており、昨年度の同時期と比較して増加しています。また、事故後に、相手からの「大丈夫？」の問いかけに「大丈夫」と答え、児童生徒が現場を離れる事故も複数発生しています。下記の内容などに引き続き留意し、これからも交通事故防止に努めていきたいと思えます。ご協力の程よろしく願います。

記

【交通安全の継続的な指導内容について】

- 1 飛び出しは絶対にしない。
- 2 一時停止の規制がない見通しの悪い交差点を通る際も、一時停止の上、左右を確認する。（死角から走行してくる自動車等や停止線を越えて停止する自動車等がある。）
- 3 自転車乗車時の左側通行を守る。ヘルメットを着用し、夕方などは早めにライトを点灯する。ブレーキや空気圧など日頃から自転車の整備に努める。
- 4 車や自転車に接触したときは、自分で軽微と判断せずに、近くにいる大人に知らせ、必ず相手の名前と連絡先を確認する。また、保護者や学校にすぐに連絡するようにする。外傷がなくても、あとから痛みが出ることもあるので、「大丈夫です」とは言わないようにする。
- 5 学校・家庭・地域が一体となり、あらゆる機会を通して子どもの命を守る取組を推進する。

※ 参考 事故の事例



ガソリンスタンド

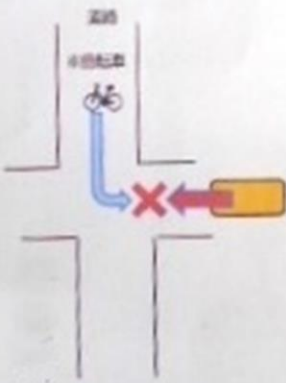
事例

一人で自転車に乗り、学習塾に向かう途中、ガソリンスタンドの出入り口付近を通過しようとしたところ、ガソリンスタンドに入ろうとしてきた自家用車と接触した。運転手が、生徒に「大丈夫か」と話しかけ、生徒が「大丈夫です」と答えて、生徒はそのまま塾へ入り、道路中央の運転手は始動をした。

対策

- ① 駐車場の出入り口や交差点等で自転車が停止している場合や歩道歩道上であっても、自家用車の運転手が通行しようとしている歩行者や自転車の存在に気が付くことが遅れ、接触する可能性がある。そのため、駐車場の出入り口や交差点等を通行する際は一時停止し、確実に自転車が停止しているかの確認を行う。
- ② 事故にあった際は、「大丈夫です」と言わず、相手の人に保護者へ連絡を取ってもらうことや車のナンバーや人物の特徴等を覚えておくことについて指導する。

事例2



事例

一人で自転車に乗り、学習塾に向かう途中、せまい路地を左折したところ、左から走行してきた自家用車とぶつかり転倒した。見通しの悪い路地を左折する際に十分な確認と一時停止をしないで飛び出したことによる。運転手の「大丈夫か」との問いかけに対し、児童は「大丈夫です」と答えた。運転手は「気を付けてね」と返した。その後、運転手から名前を聞かれるなどの反応がなかったので児童は現場を去った。

対策

- ① 見通しの悪い交差点では、一時停止の確認がなくても、一時停止し、左右を確認した上で、ゆっくり通行する。また、自転車は歩道の右側を通過する。
- ② 交差点付近に達ってしまった時は、相手の人に保護者へ連絡を取ってもらうことや車のナンバーや人物の特徴等を覚えておくことについて指導する。